

# 2026年度 入学試験 学特入試 I

## 国 語

※問題は[1]ページから[17]ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・科目を正しく記入してください。

※解答は、解答番号41番まで記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を記入してください。

|                       |                  |  |            |  |
|-----------------------|------------------|--|------------|--|
| 学<br>特<br>入<br>試<br>I | 受<br>験<br>番<br>号 |  | 氏<br><br>名 |  |
|-----------------------|------------------|--|------------|--|

高崎健康福祉大学高崎高等学校



一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

古代・中世の日本はたしかに砂金と銀が非常に豊富でした。アジアでもまれな鉱物資源国です。大量に採れる銀を何に使っていたのか？ 外国製品を買っていたのです。たとえば中国の生糸・絹織物、陶磁器や生薬や、インドの世界一高い品質の木綿などです。ところがスペイン人も、侵略したアメリカ大陸で獲得した銀で、中国のものを買っていました。

I 日本よりもアメリカ大陸の方が銀の産出量が多かったのです。とうぜん、より多く銀を支払う人に商品が渡ります。しだいに日本の銀も枯渇してゆき、外国のものを買う力は落ちてゆきます。これを「国際競争力に負ける」と言います。

「購買力」が弱くなり、<sup>A</sup>キウウ地に立つた日本が経済的復興をもとめて実行に移したのは、海外侵略戦争でした。豊臣秀吉の命令で、日本人たちは朝鮮半島の釜山<sup>がえん</sup>を攻略し、北上して平壤<sup>びやん</sup>まで行きました。さらに北京を抑え、皇帝を追い出して天皇を立てることで中国はすべて日本のものになる、という無理な構想を打ち立てました。さらに寧波<sup>ねいは</sup>から南下してフィリピンやインドまですべて手に入ると考えたのです。当然のことながら秀吉の軍隊は敗北し、家康による新しい時代が打ち立てられました。

どん底の日本は真剣に国の立て直しを考えるべきときが来ました。そこでまず早急に朝鮮国との国交回復を目指しました。これが江戸時代の始まりです。つまり、経済的にも文化的にも世界を巻き込んだ背景から出現した江戸時代は、グローバリゼーションと分けて考えることはできないのです。

〈a〉

朝鮮の人々に日本と仲直りをしてもらう手はじめに、最初は朝鮮の馬上サーカス団を招待します。互いの関係をほぐすのはやはり娯楽です。日本の人々の気持ちを柔らかくしてゆき、ついには朝鮮通信使という制度を作ります。朝鮮通信使のようすを北斎など多くの浮世絵師が描きます。(略)

ヨーロッパ人も日本に来るようになります。江戸に長崎屋という大きな宿屋があり、ここにオランダ東インド会社の船に乗ってくるオランダ人、ドイツ人、スウェーデン人、ノルウェー人などが居留していました。多くの日本人が「オランダ人ってどんな格好なんだろう？」などとホテルをのぞきに行きます。<sup>A</sup>江戸時代は、庶民がたくさんの外国人を目にするようになった時代なのです。

〈b〉

地方からもたくさんのお侍が江戸に came ました。参勤交代制度です。江戸時代には現在の北海道から九州まで二七〇ほどの藩があり、経済も法律もちがう自治体でした。こうした自治体の集まりが日本という国だったのです。地方の武士は公儀<sup>\*</sup>のため江戸に入りますから、たいへんな数の人たちが江戸を目指して大移動します。大名行列をなし、街道で宿泊をしながら向かいます。そのエン道<sup>B</sup>でお金を使います。

II 経

済が潤います。さらに、次々と江戸に大名屋敷が作られました。二年間住みこみ、役目が終わればまた次の人が入りますから、お金の循環<sup>イ</sup>が非常に激しい。

〈c〉

江戸時代にはたくさんのお金が入ってくるようになります。

取引相手のオランダ人が乗ってきたのは、オランダ東インド会社という会社の船。世界ではじめての株式会社です。商売がうまくいき、日本に支店を持ちました。インドネシアにも本拠地を持ちアジア全域をモウロ<sup>D</sup>した、当時のグローバルキ業<sup>D</sup>です。インドや中国の商品を船に積み、各国を廻りながら売る。まさしく商社です。インド、インドネシア、中国、日本などの製品を船に積んで帰ると、株式会社ですから株主に配当が行くという仕組みです。

### 〈d〉

当時日本に入ってくる物品の九〇％は中国のものでした。しかしその割合はどんどん減ります。なぜでしょう？ 日本人は、自ら技術国をつくろうとしていたからです。さまざまな外国の製品をサンプルとして輸入し、研究して自分たち流に創りなおします。しだいに膨大な数の職人が生まれ、日本は世界有数の職人大国になったのです。多くは農村の女性で、とても質の高い和紙や織物を生産し、江戸でびつくりするくらい高く売られました。(略)

みなさん、しま模様の服を持っていますか。江戸時代には「縞<sup>しま</sup>もよう」は「島もよう」と書いていました。インド・東南アジアから入ってきた生地<sup>E</sup>に縦のストライプ柄が圧倒的に多かったため、それを「島もの」と呼んだことからきています。たてしま模様を「島もよう」、それまで日本にあったよこしま模様を「すじ」と呼びわけていました。一七六五年ごろの浮世絵にはたてしま模様<sup>E</sup>が大量に見られます。当時の大流行ファッションだったでしょうね。

さて、江戸時代には木綿が日本で盛んに作られるようになります。木綿の技術は朝鮮、中国、インドから入ってきました。綿花を栽<sup>E</sup>バイし、

摘み、「綿繰り機」で綿と種を分けます。実は綿繰り機は日本で発明されたもので、綿花を中に挟み、手回しハンドルを廻すと種が落ちるといいたいへん

### Ⅲ

な発明品です。私は以前ラオスに行ったとき、江戸時代に使われていた綿繰り機が一般家庭で使われているのを見て驚いたのを覚えています。綿繰りを描いた浮世絵の人物の足下を見ると種がたくさん落ちています。集めてぎゅっとしぼると油になり照明器具の行燈<sup>あんどん</sup>に使います。さらに油を絞った残りかすは畑の肥料になります。捨てるものはひとつもなく、完全に循環していました。こうして木綿の技術もあつという間に国産化してしまします。

日本人は好奇心旺盛です。安土桃山時代には「ヨーロッパ風の陣羽織<sup>\*</sup>をはおつてみたい」と水玉模様の陣羽織を作る武将が出現したり、羽織の襟にフリルが付いたり、なかなか奇抜な格好をしていたようです。徳川家に伝わるフリルも、面白いかたちをしています。鎧<sup>よろい</sup>の下には立て襟のシャツを着ていました。ちょうどこの頃ヨーロッパでズボンが広まり、日本にも入ってきましたから、江戸の男性はずいぶんいろいろな種類のズボンをはいていた記録もあります。おしなべて、男性の着物から西洋のおしゃれが取り入れられていったことがわかります。

外国製品をそのままそっくり真似<sup>まね</sup>しただけではありません。鍋島藩では、日本人好みの形や色で、職人が磁器を作っていました。また、ヨーロッパから時計を仕入れ、和時計を完成させました。十六世紀中頃、ザビエルの時代にヨーロッパからアジア全域に時計が流れこみましたが、アジアで唯一日本だけが、日本流に時計を作り変えてしまったのです。

江戸時代は太陽が昇るときを「明け六つ」、太陽が沈むときを「暮れ六つ」といい、その間を六つに区切り、そのひとつの区切りを一刻と数

えました。ところが、夏は昼間が長く、冬は昼間が短くなりますよね。つまり季節によって一刻の長さがまちまちでした。ふつうだったら「時計というものは使いものにならない」となりますが「伸び縮みする毎日の生活に時計を合わせればいいんだ!」とひらめくのが日本人。季節ごとにおもりを調節し、時計を使いこなしていました。

日本人は時計によって、非常に複雑な歯車の技術を手にしました。この精巧な歯車を使って、茶汲み人形のような、電源を使わないロボットを発明しています。また、木製の歯車を組み合わせることで、舞台装置も発明しました。現在でも歌舞伎で使われている回り舞台、せり出しなどは、すべて江戸時代に作られた世界初の舞台装置です。

それから活字です。出版業も江戸時代に生まれました。もともとは中国で発明された活字が朝鮮半島に渡り発達したものを、徳川家康が日本へ導入したところから始まります。銅活字を導入し、日本化して木活字で印刷した教科書類ができます。使用したのは武士の子どもたちです。すると、民間の出版社もぜひ活字で本を作ってみたいと思うようになる。活字は一文字ずつ組んで使いますね。当時は組む技術の関係であまり多くの本は作れないということがわかり、そのうち一ページぶんの版を彫る印刷が主流になっていきます。こうして、活字をきっかけに日本には本があふれるようになりました。明治期に今度はヨーロッパ式の活字が入って来て、現在に続くことになります。なんと日本には活字が二度入ってきていたのです。

また、当時の浮世絵のカラー印刷はとりわけ、世界でも有数の技術でした。カラー印刷本がさかんになると、本の装幀に凝るようになりまし。上下巻買うと表紙が一枚の絵になるとか、カラーの口絵を入れたり

しました。浮世絵師たちは、本の挿絵も盛んに描きました。恋川春町は現役武士でありながら、「黄表紙」といういまでいうSF漫画のような娯楽本を書き、また絵も描いた人です。春町の『無益委記』では日本の未来が予想されていて「いつか高齢者が元気に遊ぶ社会がきて、若者は家の中にひきこもって書見台で本を読んばかりいるだろう。男性のファッションが奇抜になっていくだろう、女性が経済力を握るだろう」などと予想しています。これは、根拠のないデタラメではなく「都市化現象」のあらわれなんですね。都心部においては高齢者が遊び、若者のやる気がなく、女性が、都市で消費されるものの生産に<sup>F</sup>ジユウ事するので、経済力を持つ、と。

日本の技術力は「どうすれば教わったものを自分の中で消化し、生まれ変わらせることができるか?」ということに集中してきました。技術や考え方をすべて人に頼るのでなく、自分のものにしていく。これこそが本当の個性だと思います。<sup>キ</sup>国や産業のあり方も同じです。そうやって独自の文化を生み出してこそ、次の時代の多様性につながります。たつたひとつの価値観しかない社会では、その価値観が崩れた瞬間にぜんぶが倒れてしまいますから、生物多様性と同じように、文化や技術の多様性が必要です。

(田中優子「グローバリゼーションの中の江戸時代」による。問題作成の都合上、一部中略した箇所がある)

(注) \*寧波=中国の地名

\*公儀=幕府

\*陣羽織=武士が合戦のときに鎧の上に着用した上着

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A キュウ地

1

① キュウ居

② キュウ屈

③ キュウ助

④ キュウ激

B エン道

2

① 庭エン

② エン筆

③ エン革

④ エン技

C モウ羅

3

① モウ筆

② モウ膜

③ 消モウ

④ モウ獣

D キ業

4

① キ会

② キ床

③ キ限

④ キ画

E 裁バイ

5

① バイ養

② バイ率

③ バイ介

④ バイ償

F ジュウ事

6

① 体ジュウ

② ジュウ軟

③ ジュウ断

④ 服ジュウ

(2) 本文中の空欄 I ・ II に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

・空欄Ⅰ

7

・空欄Ⅱ

8

- ① しかし                      ② また                      ③ まずは  
④ さて                      ⑤ しかも                      ⑥ すると

(3) 次の一文を本文中に補う場合、a～dの中で最も適当な場所はどこですか。該当するところを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

～このように江戸の人口は膨れ上がり、江戸時代中期には世界中で最も人口の多い都市になりました。～

- ① a                      ② b                      ③ c                      ④ d

(4) 傍線部ア「江戸時代は、庶民がたくさん外国人を目にするようになった時代なのです」とありますが、これはどのようなことを表していますか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 他国に購買力で遅れを取り、日本が弱体化したということ。  
② 庶民が文化的に豊かで自由な暮らしを送っていたということ。  
③ 当時の日本人の興味関心が、外国人に集中したということ。  
④ 経済と文化の両面を背景にグローバル化が進んだということ。

(5) 傍線部イ「循環」と熟語の構成が同じものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- ① 温泉                      ② 避難  
③ 隔離                      ④ 因果

(6) 傍線部ウ「膨大な」の品詞として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- ① 形容詞                      ② 形容動詞  
③ 副詞                      ④ 連体詞

(7) 傍線部「木綿の技術」とありますが、日本の木綿生産の技術の説明として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- ① 外国から導入された技術に、日本独自の改良が加えられていた。
- ② 日本で発明された綿繰り機は、江戸時代以降は消滅してしまった。
- ③ 人々の生活を支えており、浮世絵にも作業の様子が描かれていた。
- ④ 作業の過程で出る副産物も一切無駄にせず、再利用されていた。

(8) 本文中の空欄

Ⅲ

に入る語として最も適当なものを、次の

①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- ① 画期的
- ② 模範的
- ③ 逆説的
- ④ 二義的

(9) 傍線部「外国製品をそのままそっくり真似ただけではありません」とありますが、外国製品の模倣にとどまらず、日本人が創意工夫を加えたものの例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- ① 和時計は、季節ごとに時の刻み方が変わってしまうという問題があったが、西洋の技術を取り入れたことで解決した。
- ② 歯車は、電源がなくても複雑な動作に対応でき、茶汲み人形や舞台装置といった当時の既存の伝統的な道具に応用された。
- ③ 活字は、朝鮮半島から伝来し、手間を省くために一ページ単位で版に彫る方法に改められたことで、効率的な大量印刷を可能にした。
- ④ カラー印刷は、本の装幀を彩るために取り入れられた技術で、表紙の視覚的な演出に加え、口絵や挿絵などの表現にも活用された。

(10) 傍線部力「恋川春町」とありますが、その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

① 春町はむやみに想像を膨らませたのではなく、江戸で実際に起こっていた社会や生活の変化を捉え、それをもとにして日本の未来の姿を描いた。

② 春町は思いつきで物語を創作したのではなく、目新しさや娯楽性を重視する都市の人々の需要に応えて、日本の未来に関する物語を生み出した。

③ 春町の手によるSF漫画は偶然に生まれたのではなく、江戸の都市化に伴いカラー印刷の技術が発達していくなかで、必然的に生まれた。

④ 春町は単なる空想を語ったのではなく、都市に次々と入ってくる外国の先進的な文化を手がかりにして、未来の日本で起こる出来事を予見した。

(11) 傍線部キ「国や産業のあり方も同じです」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

① 海外の技術や考え方に頼ることなく独自の文化を育むことで、強く安定した価値観を確立できるから。

② 外国の技術や思想を学ぶことで価値観が多様化し、異なる考え方を受け入れる土壌が生まれるから。

③ 独自の文化を持つことで文化や技術に幅が生まれ、ひとつの価値観に依存するリスクを避けられるから。

④ 学んだ技術や思想を発展させようとする姿勢によって固定観念を打破し、国や産業を成長させられるから。

(12) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

① 江戸時代には、全国に複数の藩が存在し、それぞれの藩が海外の輸入品を販売することで経済を活発にしていた。

② オランダ東インド会社は、日本に拠点を構えたことによって商売が安定し、徐々にアジア全域に進出していった。

③ 日本人は、インド・東南アジアから入ってきたたてじま模様の服から着想を得て、よこじま模様の服を生産した。

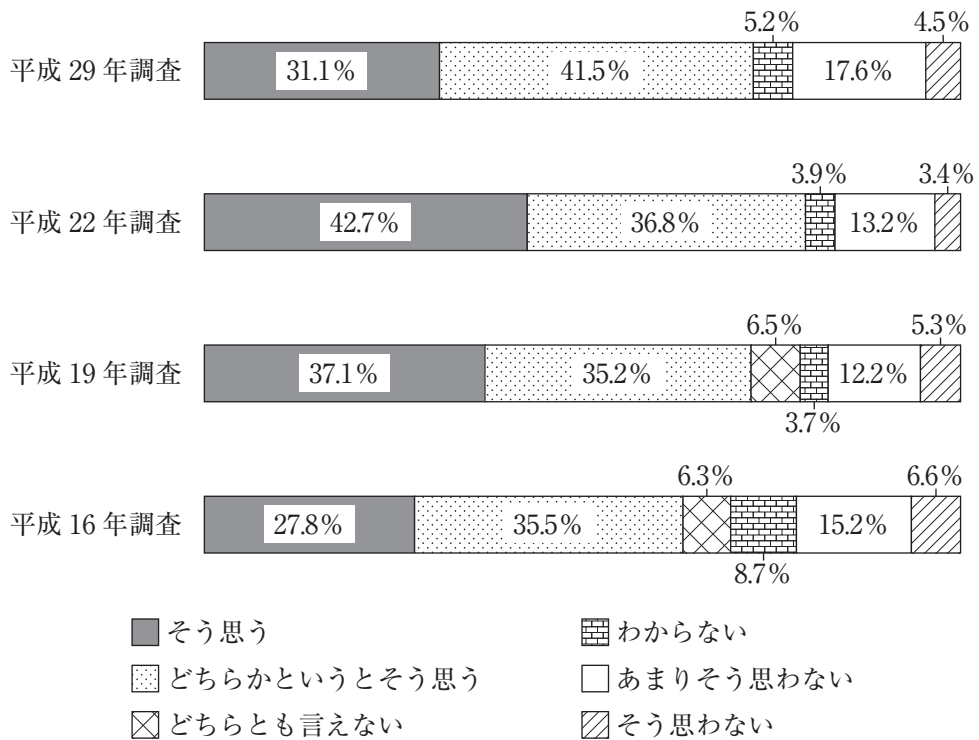
④ 江戸時代に着用されていた衣装の特徴から、男性がいちはやく西洋の流行を取り入れていたことがうかがえる。

(13) 次の資料は、「日本の科学技術は、諸外国に比べ進んでいると思うか」についての調査結果です。この資料から読み取ることができる内容として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 「そう思う」、「どちらかというと思う」と答えた人の割合の合計は、いずれの年においても半分を超えている。
- ② 平成二十二年に「そう思う」と答えた人の割合は、平成十九年に「そう思わない」と答えた人の割合の約八倍である。
- ③ 「そう思う」、「どちらかというと思う」と答えた人の割合の合計は、平成二十二年まで増加し、平成二十九年に減少した。
- ④ 平成二十九年では、「そう思う」と答えた人の割合は、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と答えた人の割合の合計より少ない。

〈資料…「日本の科学技術は、諸外国に比べ進んでいると思うか」



※小数点以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない箇所がある。

(内閣府 平成二十二年・平成二十九年「科学技術と社会に関する世論調査」より)

問題は次のページに続きます。

二

次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

「今はむかし、ある大名、きはめて良き名馬をもとめて、我が一大事の先途見るべき物は、此馬なりとて秘蔵せられ、馬の飼料とて、米・豆潤沢にあてがはれしに、馬飼の者、それを皆耗ぎてをのれが徳とし、馬にはわづかに草の糜<sup>かゆ</sup>ともしきほどに与へて飼ひ置きぬ。案のごとく天下乱れて戦に及ぶ。『馬を秘蔵せしは此たびの事なり』とて、かの大名人の馬にめされしに、馬の漢もことのほかに鈍く、はねをどる勢もなし。大名大いに怒りて、『かかる用にも立たぬ馬とは思ひもよらず、いたはりて飼はせけることよ』とて、鞭<sup>むち</sup>にて散々に打ちければ、この馬、人のごとくに物いふて、『いかに殿もよく聞き給へ。馬飼更に食を惜しみて、腹に飽くほど与へたる事なし。さるままに力も弱く、こころも勇まず、道も行かれず』とつげ侍<sup>は</sup>べり」と、古き人の語られし。

〔浮世物語〕による

(注) \*先途＝勝敗や運命の大事な分かれ道

\*耗ぎて＝横取りをして

\*ともしきほどに＝不十分な程度に

\*漢＝元氣なさま

(1) 本文中で、『』が抜けている発話部分があります。その部分として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 我が一大事のく此馬なり  
② 馬の飼料とてくあてがはれし  
③ それを皆く飼ひ置きぬ  
④ 案のごとくく戦に及ぶ

(2) 二重傍線部「きはめて」、「をのれ」、「わづかに」を現代仮名遣いで表したものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① きはめて／おのれ／わづかに  
② きわめて／をのれ／わづかに  
③ きはめて／をのれ／わづかに  
④ きわめて／おのれ／わづかに  
⑤ きわめて／おのれ／わづかに

(3) 傍線部ア「秘蔵せられ」、イ「あてがはれしに」、ウ「飼ひ置きぬ」、エ「めされしに」の中から、動作の主体が他の三つと異なるものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① ア「秘蔵せられ」
- ② イ「あてがはれしに」
- ③ ウ「飼ひ置きぬ」
- ④ エ「めされしに」

(4) 傍線部オ「馬の漢もことのほかに鈍く、はねをどる勢もなし」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

23

- ① 大名が馬飼の者ばかりを優遇し、肝心の馬には粗末な食事を与えて弱らせてしまっていたから。
- ② 大名は馬に食料を与えることばかりに気を取られて、戦に備えて鍛錬することを怠っていたから。
- ③ 大名が馬の世話を人任せにしていたため、馬は大名のために戦おうという気を起こさなかったから。
- ④ 馬飼の者が馬に用意された食料を自分のものにしていたため、馬は力を養うことができなかったから。

(5) 傍線部力「鞭にて散々に打ちければ」とありますが、大名がこのようにした理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

24

- ① 優れた馬が、馬飼の者のしわざによって力を発揮できずにいることに気づいて腹を立てたから。
- ② 存分に食料を与えたはずなのに、なぜ大名に忠誠を誓おうとしな
- いのかを馬に問いただそうとしたから。
- ③ 大事に備えて馬を大切に育てていたのに、まったく使い物にならないことが腹立たしかったから。
- ④ 馬を甘やかして育てたせいで、かえって役立たずになってしまったことがやりきれなかったから。

(6) 傍線部キ「いかに殿もよく聞き給へ」とありますが、このときの馬長についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

25

- ① 実力の伴わない者が戦に挑むことがいかに愚かであるかを大名に教えようとしている。
- ② 自分が役に立たないのは馬飼の者のせいであることを大名に訴えようとしている。
- ③ 自分の努力不足のために大事な役目を果たせないことを大名にわびようとしている。
- ④ 食事をおろそかにすることがどれほど悪い結果を招くかを大名に伝えようとしている。

(7) 本作品（『浮世物語』）は江戸時代に書かれた作品ですが、同時代に成立した作品として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

26

- ① 土佐日記
- ② 平家物語
- ③ 奥のほそ道
- ④ 沙石集

問題は次のページに続きます。

【三】 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

晋<sup>しんノ</sup>太<sup>\*たい</sup>元<sup>げん</sup>十<sup>①</sup>九<sup>\*は</sup>年<sup>ノ</sup>、鄱

以<sup>⑥</sup>斑<sup>はん</sup>皮<sup>び</sup>一<sup>①</sup>衣<sup>き</sup>之<sup>これヲ</sup>、即<sup>チ</sup>能<sup>よク</sup>跳<sup>⑥</sup>

躍<sup>シテ</sup>噬<sup>\*せい</sup>逐<sup>ちクス</sup>。

陽<sup>ようノ</sup>桓<sup>かん</sup>闾<sup>せん</sup>殺<sup>シ</sup>犬<sup>ヲ</sup>祭<sup>ル</sup>二<sup>②</sup>郷<sup>ノ</sup>里<sup>ノ</sup>

(注) \*太元 元号

\*鄱陽 中国の地名

(「異苑」による)

綏<sup>すい</sup>山<sup>ざんヲ</sup>一<sup>①</sup>煮<sup>ルモ</sup>肉<sup>ヲ</sup>不<sup>\*ず</sup>熟<sup>セ</sup>、神<sup>②</sup>怒<sup>リテ</sup>、

\*不熟 生煮えで  
\*当 令 当然 させるべきだ  
\*斑皮 虎柄の皮

\*巫 神に仕える人  
\*謫 罰を与えて  
\*噬逐 人にかみつく

即<sup>③</sup>下<sup>\*</sup>教于巫曰、「桓闾<sup>ハ</sup>

以<sup>もつテ</sup>肉<sup>ノ</sup>生<sup>ナルヲ</sup>胎<sup>おく</sup>我<sup>④</sup>。当<sup>\*まさニ</sup>謫<sup>\*せメテ</sup>

令<sup>しム</sup>二<sup>①</sup>自<sup>ラ</sup>食<sup>ラハ</sup>也。其<sup>そノ</sup>年<sup>たちまち</sup>忽<sup>⑤</sup>变<sup>ジテ</sup>

作<sup>な</sup>虎<sup>ル</sup>。作<sup>レ</sup>虎<sup>ト</sup>之<sup>の</sup>始<sup>メハ</sup>、見<sup>ルヤ</sup>人<sup>ヲ</sup>

(1) 傍線部①「鄱陽桓闾殺犬祭郷里綏山」を書き下し文に直したとき、十番目に読む漢字を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

27

- ① 殺 ② 祭 ③ 綏 ④ 山

(2) 傍線部②「神怒」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

28

- ① 桓闾が犬を殺したから。
- ② 桓闾が犬の肉を煮ようとしたから。
- ③ 桓闾が犬の肉をささげたから。
- ④ 桓闾がささげた肉が生煮えであつたから。

(3) 傍線部③「即下教于巫曰」が「即ち教<sup>すなは</sup>へを巫に下して曰く」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Dに適するものを、それぞれの①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい（同じ番号を何度選んでもよい）。

即下教于巫曰

A

B

C

D

・ A

29

・ B

30

・ C

31

・ D

32

- ① 一
- ② 二
- ③ 三
- ④ レ
- ⑤ 下
- ⑥ 上
- ⑦ 下
- ⑧ 返り点なし

(4) 傍線部④「我」とは誰のことですか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

33

- ① 桓闾
- ② 犬
- ③ 神
- ④ 巫

(5) 傍線部⑤「当謫令自食也」は「当に謫めて自ら食らはしむべし」と読みます。これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

34

- ① 神が、桓闾の行いがいかにひどいものであつたかを説いて聞かせようとしている。
- ② 神が、自分の受けた扱いをそのまま返すことで、桓闾に罰を与えようとしている。
- ③ 神が、なぜ桓闾からひどい仕打ちを受けなければならなかったのかと自問している。
- ④ 神が、桓闾の犯した悪事を一切許そうとせず、謝罪をするよう迫っている。

(6) 傍線部⑥「衣」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

35

- ① 桓闾
- ② 犬
- ③ 神
- ④ 巫

(7) この文章の内容として適当でないものを、次の①～④の中から一つ  
選び、その番号をマークしなさい。

36

- ① 桓闾は、生の肉を食べなかったせいで虎になった。
- ② 桓闾が虎になったのは、太元十九年のことだった。
- ③ 桓闾は、人の姿が目に入ったときに虎に変身した。
- ④ 桓闾は、虎になると飛び跳ねて人にかみついた。

#### 四

次の(1)～(5)の意味を持つ故事成語として最も適当なものを、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 物事を完成させるための最後の大事な仕上げのこと。

37

(2) する必要のない心配をすること。

38

(3) 人生の幸不幸は予測できないものだということ。

39

(4) 人に疑われるような行動は慎むべきだということ。

40

(5) 自分の力量をわきまえず強敵に向かうこと。

41

① 杞憂

② 大器晩成

③ 李下に冠を正さず

④ 杜撰

⑤ 螭螂とろろの斧

⑥ 鶏口牛後

⑦ 画竜点睛

⑧ 塞翁が馬

